

講師が「中国語」の意味で“Mandarin” と黒板に書きました。大学時代の恩師が日本で言ってみれば「さむらい言葉」に近いのではないかと説明してくれたことを思い出しました。しかし、マンダリンと聞くと、“Mandarin Orange” を思い浮かべてしまう人が多いのではないかと思います。みかん、まず各国語による訳語を確認してみましょう。

日本語	蜜柑 みかん
英語	mandarin マンダリン、ミャンダリン mandarin orange マンダリン・オーリンジ、ミャンダリン・オーリンジ tangerine タンジェリン、タンジャリーン tangerine orange タンジェリン・オーリンジ、タンジャリーン・オーリンジ satsuma orange サトスーマ・オーリンジ mikan ミカーン
フランス語	mandarine マンダリーヌ
ドイツ語	Mandarine マンダリーネ
イタリア語	mandarino マンダリーノ
スペイン語	mandarina マンダリーナ
ポルトガル語	mandarina マンダリーナ tangerina タンジェリーナ
オランダ語	mandarijn マンダライン
ラテン語	Citrus unshiu キトルス・ウンシュウ (学名、ウンシュウミカン) Citrus reticulata キトルス・レティクラタ (学名、マンダリンオレンジ)
現代ギリシャ語	μανδάρινι マンダリニ
ロシア語	манда́рин マンダリーン
中国語	橘子 júzi ジュズー、チュイター
朝鮮語 (韓国語)	귤 キュル、ギュル
アラビア語	カラマンティーナ

しかし「マンダリン」という言葉自体はフルーツを表す言葉ではありませんでした。

*"Chinese official," 1580s, via Portuguese mandarim or older Dutch mandorijn from Malay mantri, from Hindi mantri "councilor, minister of state," from Sanskrit mantri, nominative of mantrin- "advisor," from mantra "counsel," from PIE root *men- "to think" (see mind (n)).*

Form influenced in Portuguese by mandar "to command, order." Used generically for the several grades of Chinese officials; sense of "chief dialect of Chinese" (spoken by officials and educated people) is from c. 1600. Transferred sense of "important person" attested by 1907.

The type of small, deep-colored orange so called from 1771, from resemblance of its color to that of robes worn by mandarins. (Reference is <http://www.etymonline.com>)

マンダリンという言葉は、実はサンスクリット語からきていて、"adviser"や"counsel"をあらわす言葉です。ポルトガル語の"mandar"という単語の意味である"command"や、"order"の意味をあらわす単語から来ている。印欧祖語の語根 *men- "to think" まで遡ることができます。(from PIE root *men- "to think" (see mind (n.)). Mandarin Orange の名称は Mandarin (Chinese official, 官僚、官吏) の服装が色の濃いオレンジであったことによります。

ミカン科ミカン属の常緑高木とその果実。柑橘類の総称でもあるが、主にウンシュウミカンをさす。秋から冬にかけてオレンジ色の実をつけ、生食用のほか皮を調味料などに使う。

英語の「マンダリン」は中国原産のミカンをさし、中国・清朝の官吏あらわすポルトガル語が由来といわれる。「タンジェリン」はモロッコの都市「タンジール (Tangier)」から、「サトスーマ・オーリンジ」は薩摩(鹿児島県)を由来とする。花言葉は純潔、花嫁の喜び、清純。5月22日、12月3日の誕生花。

マンダリン (Mandarin) 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

- マンダリン (官僚) - 官吏。以下はこれから派生。
- 中華人民共和国および中華民国の公用語 (普通話)。官話 (北京官話) のこと。17世紀、華南に渡来した宣教師が、土着の言語のほかに官署で話されている公用語があることに気づき、これを官僚 (マンダリン) の言語と呼んだことに由来する。
- マンダリンオレンジ (Mandarine Orange) - ウンシュウミカンの近縁種。またその色。中国清朝の官吏であるマンダリンが身につけていた服の色による。
- マンダリンカラー (Mandarin collar) - マンダリン (官僚) が身につけていた服の襟の形から。

マンダリン (官僚) 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

清朝の官僚

官僚のマンダリン (Mandarin) とは、中国 (主に明朝から清朝) やベトナムの官僚を、西洋人が呼んだ語である。

語源

英語の「Mandarin」とは、元々はポルトガル語の「命令者」や「大臣」を意味する語「mandarin」(現代は mandarim と表記)であり、さらに遡るとサンスクリット語の「Mantri मन्त्री」(指導者)に由来しており、元来はマラッカ王国の建国の功臣の子孫である貴族階層をこう呼んでいたものがポルトガル語に取り入れられたものである。

福澤諭吉訳の英語、広東語、日本語単語帳である『増訂華英通語』も「Mandarin」の語に「府官 (ヤクニン)」との訳語を付けている^[1]。

北京官話も西洋語圏では「マンダリン」と呼ばれているが、これは言語が多様な中国において、地方



出身者を含めた官吏が役場で使う共通語だったからである。異説として、満州の官僚を意味する「満大人」(Mǎn dàrén, マンダーレン)の音読みという説があるが、Mandarin は 1636 年の清国成立以前から使われている語である。

語義

中国では、隋王朝から科挙が実施されており、その競争は熾烈を極めた。科挙に及第する事は、歴代中華帝国において、低い出自から国務大臣級の地位を手にするほぼ唯一の手段だからである。受験者たちは、幼少の頃から科挙の試験科目(四書五経の暗記、詩作や歴史など)を頭に詰め込んだ。及第して官僚になった者たちは、科挙の試験科目に凝り固まって特権意識を振りかざし、民衆の生活に関する事柄を軽んじた。これは歴代王朝において何度も問題になってきた。

このような歴史からか、西洋では、公務員試験に合格する為に詰め込み教育を受けている(その反面倫理や教養面でのバランスに欠けている)者や、硬直的で時代遅れの発想を振りかざす官僚を諷刺して「マンダリン」と呼ぶ。

最後に

長い引用が続きますが語彙を増やすという点では

***men-** (1)Proto-Indo-European root meaning "to think"から 30 以上の英単語、**Latin mens** "mind, understanding, reason," **memini** "I remember," からも 30 以上の英単語を関連付けることができます。

admonish; Ahura Mazda; ament; amentia; amnesia; **amnesty**; anamnesis; anamnestic; **automatic**; **automaton**; balletomane; **comment**; compos mentis; **dement**; **demonstrate**; Eumenides; **idiomatic**; maenad; -mancy; **mandarin**; **mania**; maniac; manic; mantic; **mantis**; mantra; **memento**; mens rea; **mental**; **mention**; **mentor**; **mind**; **Minerva**; minnesinger; **mnemonic**; Mnemosyne; **money**; monition; **monitor**; **monster**; **monument**; **mosaic**; **Muse**; **museum**; **music**; muster; premonition; **reminiscence**; **reminiscent**; **summon**.

It is the hypothetical source of/evidence for its existence is provided by: Sanskrit *manas-* "mind, spirit," *matih* "thought," *munih* "sage, seer;" Avestan *manah-* "mind, spirit;" Greek *memona* "I yearn," *mania* "madness," *mantis* "one who divines, prophet, seer;" **Latin mens** "mind, understanding, reason," **memini** "I remember," *mentio* "remembrance;" Lithuanian *mintis* "thought, idea," Old Church Slavonic *mineti* "to believe, think," Russian *pamjat* "memory;" Gothic *gamunds*, Old English *gemynd* "memory, remembrance; conscious mind, intellect."